

1、はじめに

下北半島の天然林の調査は一昨年から実施していて、特に激しい伐採地である宇曽利湖と薬研温泉の中間地点と、大畑川源流部についてはすでに報告しているとおりであるが、新たに脇野沢の伐採計画も発覚したので現地調査を実施した。この計画地は、北限のサル(天然記念物)の中で、人間たちに依存しない最後の1集団が生息している場所とされているので、伐採されることによって、「最後の野生」といういわば人間側の良心を失いかねない、また、生態系の存続そのものがなし崩しにされかねない、いわばシンボリックな場所となっている。

2、目的

前回の林野庁、民主党国会議員を交えた大畑川源流部の視察の際に、現地の森林管理署長がポロッと口を滑らせた、「脇野沢にはクマゲラがいますよね」という言葉がずっと心に残っていて、もしかして白神山地のクマゲラ生息地のような原生的なブナ林があり、そしてそこにクマゲラを見つけられるのではという期待と、上記の人間に媚びないという哲学を持ったサル集団にも興味があったので、彼らの棲み家の森はいったいどんな状況なのかを確かめることにした。

3、調査地

4月6日 = 脇野沢川(蛎崎越沢林道、源藤城林道、面木沢林道、滝山林道) & 九艘泊

4月7日 = 口広川(流域林道×3)、小沢川林道、男川(蛎崎林道、松山沢林道、滑川林道、滝沢林道)

4、調査結果

最初に入った蛎崎越沢林道では、途中の堰堤から二股山方面の森の状況を確認していると、突然、イヌワシ(*1)が出現した。その後、更に上流に移動したが流域のほとんどは不成績造林地となっていて見通しも悪くなったので途中で断念して国道に下りた。面木沢林道は国道から西に向かって伸びる林道だが、こちらほとんど人工林化され、源流部の天然林にも伐採が入ってから時間が経過していた。ここでは最深部の稜線上空を旋回するクマタカ(*2)を確認した。対岸から見た二股山は山頂近くまで白い傷跡のような残雪が見え、作業道が入っていることを物語っていた。次に入った源藤城林道は、林道そのものが手入れをされて 抜伐された二股山いて、伐採中か伐採予定を予想させた。林道の終点近くまで行ったが、その更に奥にはまだ伐採されていないヒバを中心としたブナ絡みの天然林が残っていたので、理性ある最後のサル集団の生息地はここかもしれないと感じた。すでに夕方を過ぎていたので、九艘泊まで宿泊適地を探しながら移動したが、結局、陸奥湾フェリーの駐車場で車内泊となった。



2日目は、口広川の林道を遡った。さすがに源流域まで登ると残雪や落石が多くなり、それらをどかしながらとなった。この川の源流部は急峻な地形のせい、比較的天然林が残っていたので、沢に降りてブナ林の中を歩いてみたが、古い作業道があり、ヒバを抜き切りされていた。

奥地に伸びる林道

ここも一部の危険箇所を残しほとんど伐採されてしまっていた。

最後に、男川の林道を詰めたが、上流部の松山沢林道の脇でブナ大木の枯木にクマゲラ（*3）の可能性のある採餌木を見つけた。ここも伐採跡が古く、人工林化も進んでいたのと、林道の途中の落石がひどく引き返した。次に滑川林道に入って奥地を目指したが、無理して突っ込んだ残雪に車がはまり、脱出できなくなってしまった。この時期にこんな山奥まで入ってくる車もなく、仕方ないので4輪をひとつずつジャッキアップしては木や石を詰めて車高を上げ、枯れ木のレールを敷いて脱出に成功したが、はまってから1時間半を経過していた。時間的に厳しくなったが、最後に入った林道では、除雪がしてあり、車も何台か通った痕跡があった。林道の終点と思われる所では作業員が来ていて伐採が進行中だった。ここで調査を終了し帰途に着いた。



5、まとめとして

もはや下北半島の原生的な天然林は瀕死の重体と断言していいだろう。天然林だけではない、下半身は核の廃棄物に汚染され、頭には原発が発症し、内臓もボロボロだ。つまり、そこにある生態系そのものが末期的な状態を呈している。

少なくともわれわれ大人には、未来の子供たちに負荷を残さないという最低限のルールがあるべきだろう。その最低限のルールがこうして現場を見て歩く限り、現状ではないがしるにされているといわざるを得ない。特にニホンザルを典型とした様々な動植物の地域個体群の消滅が懸念される。



聖域に伸びる林道

今、行われている原生的な天然林の伐採と、その計画は、すみやかに中断し、下北半島全体での遺伝子レベルも含めた大規模な学術調査を実施すべきだ。

- * 1) イヌワシ出現記録 / 15 : 13 に二股山南斜面7合目付近に出現、西に向いていたがすぐに南東に流れ、高度を維持したまま滑空してロスト。成鳥。不明。25秒観察。
- * 2) クマタカ出現記録 / 16 : 14 に面木沢西側分水嶺付近で確認。3回旋回し、北側に低くロスト。逆光で老若不明。不明。約20秒観察。
- * 3) クマゲラ痕跡記録 / 10mほどの高さのブナ枯れ木に発見。その地上高8m付近に5個の大きな穴。規模としては申し分がないが、高い位置で計測が出来ないことと、やや古くなっているため断定できず。

調査時確認種

哺乳類 / ニホンツキノワグマ(熊柵)、ニホンカモシカ、トウホクノウサギ(フン)、ホンドテン(フン)、ホンドタヌキ(足跡)、ホンドキツネ(足跡)、ニホンザル、

鳥類 / イヌワシ、クマタカ、トビ、ノスリ、ヤマドリ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ミソサザイ、ツグミ、コガラ、シジュウカラ、ホウジロ、カシラダカ、マヒワ、カケス、ハシボソガラス、カルガモ、オシドリ、カモメ

両生類 / ヤマアカガエル、クマゲラの痕跡

